

中 期 経 営 計 画

(令和5年度～令和7年度)

学校法人 宝 仙 学 園

<中期経営計画の策定にあたって>

グローバル化社会の進展により、政治・経済・社会等様々な面において私たちの日常生活にも大きな変化と影響を及ぼす時代となっています。学園経営におきましても例外ではなく、不透明感漂う環境となっていることが伺えます。

昨今のこのような情勢下おきましては、的確な経営理念と中長期的な視野に基づいた中期経営計画の立案と実践の重要性が一段と強く認識されているところ
です。

前期の中期経営計画を振り返ってみますと、学園全体での各種経営目標並びに各部門で設定しました経営戦略は着実な成果達成を見ることが出来ます。特に最重要目標であります「財務基盤の強化」は大幅な伸長を実現し、総合学園としての地力が根付いて来たものと評価されます。

新たな中期経営計画におきましては、いよいよ学園創立 100 周年を視野に入れた次世代の学園経営の礎ともなる戦略と実践が求められます。

“理想の学び舎”の実現に向けて、教職員の皆さまと共に様々な事業を力強く展開し、学園の未来創造への歩みを確実なものとしたいと願っております。

令和 5 年 4 月

理事長 富田道生

「建学の精神」

仏教精神を基調とした人間教育によって品格と知性を兼ね備えた人を造る。

○『寺院は国民教育の源泉であったのです。

教育は「人」を養成するものであると確信いたします。知識の如きは第二位にあるべきものだと思います。・・・あの学校は「何となく品格がよい」と云って貰いたいのであります。』

(「中野高等女学校設立趣意書」抜粋:創立者富田コウ純)

○『宝仙学園は仏教精神を基調に、知性と情操豊かな人格の陶冶を教育の基本においております。すなわち宝仙学園では創立以来、「人を造る」ことを教育の基本方針としております。』

(「宝仙学園 70 周年史」抜粋:第二代理事長富田道コウ)

○『複雑な、かつ変化の激しい状況における学園経営には、現状を客観的に認識し、時代の先を予見する能力が必要とされます。・・・みんなで力を合わせて、創立者の理想とした教育、すなわち時代を超えて変わることのない「品格と知性ある人を造る」教育の実現に向けて・・・取り組んでいただきますよう。』

(平成 28 年理事長方針:現理事長富田道生)

「経営方針」

第 1 部 宝仙学園長期ビジョン ～2028 創立 100 周年に向けて～

<宝仙学園>

感応の心を大切に、共に学び、高め合う、理想の学び舎を創造する。

<こども教育宝仙大学>

100 年ブランド「保育の宝仙」への挑戦

存在感あふれる保育単科大学を作り上げる。

第2部 経営目標

～学園創立100周年(2028年)に向けた強固な経営体質づくり～

宝仙学園は創立100周年を令和10(2028)年に迎える。当中期経営計画は、その5年前となる令和5年度にスタートする重要な3カ年計画である。老朽化した校舎の建替え、財務基盤の強化、環境変化への対応、特色ある教育の進展、次代を担うリーダー層の育成等、次の100年への永続的な繁栄に向け、全教職員の英知を結集して着実に成果をあげていく。

1. 財務基盤の強化

記念事業の柱となる新校舎建設には更なる自己資金の積み増しが必要となる。そのためには財務基盤の強化は最重要課題であり、前中期経営計画より継続して取り組んで行く。

経営基盤の根幹は学則定員の充足であり、部門間連携の深化、新しい募集活動への取り組み等、全部門が目標達成に向け果敢にチャレンジする。

予算の策定にあたっては、各部門と本部事務局が綿密な擦り合わせを行い、財務管理においては重点経営指標を設定して進捗管理を行う。

2. 環境変化への対応

少子化の進行、不透明なアフターコロナ、学校法人のガバナンス改革等、私学を取り巻く経営環境は絶えず変化している。私学法改正による学校法人制度改革や大学設置基準の一部改正等、足元では変化への対応は待ったなしの状況にある。次の100年に向けて、こうした変化に機敏かつ的確に対応していく。さらに、グローバル化、情報通信技術の進展、教育行政の変化等に対応した教育プログラムの開発や業務効率化も着実に進めていく。

3. 教育特色の進化と新たな特色の創造

宝仙学園では、建学の精神を教育理念の基軸に据え、各部門が独自の特色ある教育を展開している。こうした教育特色を更に進化させるとともに、総合学園に相応しい新たな教育特色を創造していくことで、魅力ある教育機関としての社会的評価を高め、ブランド力の強化につなげる。

4. 人材戦略

教育機関の最も重要な経営資源は人材であり、教職員一人ひとりのスキル向上を支援する研修制度の充実、新しい人事評価制度の定着、明るく働き甲斐のある職場環境の実現に取り組む。また、将来の学園経営を担うリーダー層の育成も重要な課題として取り組む。

第3部 財務計画

1. 学則定員の安定的充足による収益力の維持向上

学園全体の健全な財務体質を確固たるものにするため、部門別に入学者層を捉えつつ、部門共同の責任として学則定員（または入学定員）の充足を必達目標とする。

事業活動収支における基本金組入前収支差額の目標を毎年3億円以上とし、新中期経営計画の3年間で9億円以上を計上する。

2. 学園創立100周年事業計画を見据えた施設・設備の更新計画

現有施設の老朽化による修繕および必要な施設・設備の更新は随時実行するが、創立100周年記念を見据え、保守点検の強化等によって極力長寿化を図る。

3. 寄附金募集・各種補助金確保への積極的取り組み

財務基盤を安定化させるため、学納金収入につぐ柱である寄附金及び補助金への取り組み策を積極的に進める。特に寄附金については、受入方法や対象者の拡大により積極的に募集を展開する。同時に100周年という大きな記念事業を踏まえた寄附金募集戦略を構築し始動させる。

補助金については文科省及び東京都の政策動向を注視し、漏れなく的確に対応する。

4. 経費管理強化による固定費の削減

- ・従来の慣例による取引を見直すとともに合理的な取引先を開拓し、健全な競争原理の働く環境のもと業者を選定する。
- ・ペーパーレスによる業務効率化の推進
- ・インボイス（適格請求書）制度の開始による取引業者精選の取り組み
- ・部門別に具体的な固定費削減目標を設定

5. 財務指標による管理を継続する

財務計画を着実に達成するため、財務指標を設定し進捗管理を行う。学園全体及び各部門の指標による管理を行い、実情に応じて適宜見直しを行うこととする。

財務指標	学園全体
・ 収容定員充足率=在籍者数/収容定員	100%以上
・ 事業活動収支差額比率 = (事業活動収入－事業活動支出) / 事業活動収入	10%以上
・ 人件費比率 = 人件費/経常収入	60%未満
・ 寄附金比率 = 寄附金/事業活動収入 (100周年記念事業の特別寄附を除く)	2%以上

＜中期経営計画の推進＞

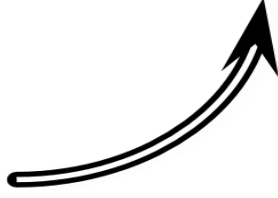
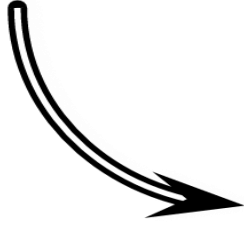
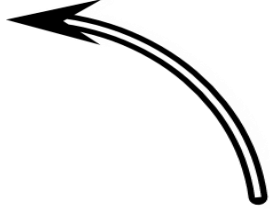
教育内容の充実
・建学の精神に基づく特色ある教育
・教育制度改革への機敏な対応
・入・出口対策の成果

収益力の強化
・定足数の充足
・寄附金・補助金の確保

学園の総合力
発揮による
ブランド力強化

教育分野への投資
・優秀な教職員の育成・確保
・施設・設備の充実

財務基盤の強化
・収支差額の確保
・適切な経費管理



第4部 こども教育宝仙大学の経営戦略に向けた施策

1. 教学上の戦略

「存在感あふれる保育単科大学を作り上げる」

- (1) 学生ファーストを意識し、学修者本位の教育を推進
- (2) ディプロマ・ポリシーに沿った人材の育成
初年次教育の充実を図り、「成人基礎力」および「社会人としての基礎力」向上に結び付け、学生にとっての学修成果と大学側から見た教育成果を共に追及する。
- (3) 学修者本位の魅力あるカリキュラムの検討
カリキュラム研究フォーラムにて、学修者本位の教育に向け、魅力あるカリキュラムを構築し、優れた保育者を育てる。
- (4) 幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格取得者 80%以上を達成
実践教育推進フォーラムにて免許及び資格取得率の高水準維持の方策を検討し、両免取得率 80%以上を維持する。
- (5) 実践教育の徹底
実習指導、表現教育、マイスター制度、および宝仙学園幼稚園との教育連携を充実させ、本学ならではの実践教育を推進する。
- (6) 学修支援体制の強化
履修カルテをはじめとした学修や学生支援に関する学内システムの向上を図る。大学図書館での学修支援も強化していく。
- (7) 学生生活満足度の向上
学生サービス推進フォーラムが中心となり、学生ファーストを強く意識した学生生活満足度の向上に取り組む。
- (8) IR による状況把握と対策強化
教育・学修成果について数値化を中心に可視化に努め、教育の質と学習成果の向上に結び付けていく。
- (9) 中途退学者の抑制
学生動向を早期に把握できる体制作り、情報共有を継続し、アドバイザーによる早期対応等により、中途退学者の抑制を図る。
- (10) FD 活動の充実
従来の FD 活動に加え、教職員協働による勉強会など行い、全教職員の能力・資質向上に取り組んでいく。
- (11) 研究活動の強化
研究委員会が中心となり、研修の実施や学長裁量研究費活用などを通じ、研究活動を更に活性化させていく。
- (12) 社会貢献・地域連携の推進
こども教育研究センターを中心に、社会貢献・地域連携を更に充実させていく。HOSEN 保育フォーラムでは本学ならではの産学連携を推進する。また各種活動にお

ける学生の関わりをより深め、学生にとっても学びの場としていく。

2. 入口戦略

「受験動向に応じた施策を展開し定員を充足」

- (1) 他大学との「差別化」、「高校生ひとり一人に寄り添うきめ細やかな募集活動」の推進
- (2) 進学アドバイザー制度の充実
本学のみならず、他大学の教育内容にも精通した上で、受験動向に応じた的確なアドバイス、情報発信を行っていく。
- (3) 学校推薦型選抜出願者の確保（毎年 40 名以上目標）
高校教員とのコミュニケーション強化、探究学習支援、出張授業の実施等を通じて、特定の指定校との高大接続（協定の締結を含む）を推進していく。
- (4) 内部進学者の安定的な受入（毎年 15 名以上目標）
宝仙学園高等学校女子部との高大接続取組み（出張授業、教員間研修等の実施）を継続、深化させていく。
- (5) 魅力ある入試設計と、総合型選抜(幼児教育・保育コース)の実施校拡大（毎年一般・総合型選抜入学者数 50 名以上目標）
魅力ある入試設計に向け引き続き改善を図る。また総合型選抜(幼児教育・保育コース)を積極的に提案し、保育コース等在籍の高校生の出願を募っていく。
- (6) 学生広報サポーターの育成と活動強化
- (7) ホームページ、SNS 等の積極活用
- (8) オープンキャンパスの集客力、満足度の向上
本学の強みを活かした教員と学生、来校者が一体となるプログラム等を企画し、高校生を惹きつけていく。
- (9) 高校教員・保護者に対し教育力を訴求
I R 手法を採り入れ、教育の質および成果を可視化し、高校教員・保護者に対し教育力を訴求していく。
- (10) 高校 1・2 年生向け対応の前倒しと強化
ホームページ・SNS の活用、オンラインオープンキャンパス実施に加え、近隣高校等へのアプローチを進め、出願見込者の早期囲い込みを図る。

3. 出口戦略

「保育職就職率の高水準維持と長期在職」

- (1) キャリアサポート体制の充実
 - ・キャリア教育の強化
キャリアデザイン・プログラムを一層充実させ、各学年に応じたキャリアガイダンスを実施し、自己理解や保育を主とした職業理解を深める。
 - ・実習体験の質の向上

高い質を実現できる実習園を選別し、学生のモチベーションアップにつなげ、保育職への就職に結び付けていく。

・最適な就職サポートの実施

就職先（園・施設）情報の入手、一元化により個々の学生の希望・適性に沿った最適なマッチングを実現し、高い保育意欲を維持しながら長期に亘って働けるためのサポートを行う。

・個別面談、助言の早期実施

実習・キャリアサポートセンターが中心となって、学生個別相談・助言を3年次からスタートする。また学生一人一人に対して教職員が連携し、きめ細かい対応を実施。外部のハローワークなど専門機関による相談体制も継続していく。

(2) 卒業生に対する就職者割合の向上（90%以上目標）

学生に対して正社員就職に関する重要性・メリットを浸透させるとともに、早い時期からの就職サポートを実施し、極力100%に近づけていく。

(3) 保育職就職者割合の高水準維持（90%以上目標）

学生の多様化等により早い段階から保育職以外の就職を検討する学生もいるため、本学在籍の意義や保育職の社会的重要性等を学生に浸透させていく。

(4) 公務員就職者の増加（就職者の20%以上目標）

公務員の魅力を伝える機会を増やし、受験者増加と公務員試験対策の内容充実、2次試験（面接）対策も早い段階から実施する。

4. 人材育成・組織運営戦略

「100年ブランド『保育の宝仙』への挑戦」

(1) 宝仙学園幼稚園、高校女子部こども教育コースと連携し、100年ブランド「保育の宝仙」へ挑戦。

(2) Visionに基づき、大学改革と内部質保証を全教職員で推進。

【Vision】 こども教育 HOSEN WAY を確立する。

・実践教育を徹底し、優れた保育者を育てる。

・一人ひとりに寄り添い、優れた保育者を育てる。

・90年の信頼「保育の宝仙」を受け継ぎ、優れた保育者を育てる。

(3) 「こども教育 HOSEN WAY」の各プロジェクト推進

プロジェクトごとに PDCA サイクルを回し、着実に活動を推進し人材育成にも結び付けていく。

(4) 「内部質保証」の要となる教務改革の推進

大学改革として、学修者本位の教育に向け、カリキュラム・授業内容を不断に見直していく。

(5) 学生厚生面での更なる学生ファーストの推進

大学改革として、学友会の活性化、学修・学生生活環境の更なる充実を図り、学生生活の満足度を向上させていく。

(6) 海外保育留学の確実な実施と円滑な運営

留学センターを設置し、本格化する保育留学を円滑に運営していく。

- ・桜花学園大学、名古屋短期大学との連携活動の推進
- ・文部科学省の海外留学支援制度の活用
- ・留学効果の検証、成果報告・発信 など

(7) ガバナンス・コードの徹底、遵守

ガバナンス・コードに基づき、時代の変化に対応した大学づくりを進めていく。

また同コードの遵守状況を点検し、活動の検証、改善に取り組んでいく。

(8) 2026年度認証評価受審に向けた準備取組

(9) 新大学設置基準を踏まえた学則等の整備、改革の推進

(10) 行動指針である「情報共有」「変化」「スピード」の更なる徹底